

短期・中期・長期の3つの方法についての整理

	メリット	デメリット	意見・留意点
校区割の変更 (短期的方法)	<ul style="list-style-type: none"> 適正な児童数に近づけることができる 時間、費用がかからない 	<ul style="list-style-type: none"> 転校をする当事者の納得を得ることに課題がある 転校を余儀なくされることは子どもにストレスがかかる 抜本的な解決方法にならない(焼け石に水) 校区変更に伴う抵抗が大きい 子ども、保護者、地域への影響が大きい 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもへの影響を最小限にすべき 校区の分け方は議論されるべき 南小の校区で上小との校区再編をしてはどうか 地域の見守り隊、子ども会運営に課題がある 中学校区の再編が必要では？ 光陽台1,2,3区は東中に再編してはどうか 少人数よりもある程度の大人数の方がよい 仮に新設するとしても校区割りの変更は必要なので、新設と校区割り変更の両方を別々に実施すると2回変更することになる 現在の特例区の確認・見直しが必要 中学校区のみの変更を検討 地域(郷づくり等)との関係について考慮すべき
特認制度の導入、拡大 (中期的方法)	<ul style="list-style-type: none"> 特色のある教育が受けられる 小規模校は児童数が少ないため先生の目が届きやすい 小規模校は学校と地域が一体的に活動できる 	<ul style="list-style-type: none"> 郷づくりとの関わりが崩れる心配がある コミュニティスクール推進に影響が大きい PTA役員の選考に課題がある 個別の考えより全体の考えを重視 価値観の違いがある 児童生徒数の偏りの改善につながりにくい(6学年合計で20名増?) 実際に特認制度を利用する人数が未知数である 特認制度に対する抵抗が大きい 抜本的な解決方法にならない 	<ul style="list-style-type: none"> 多少遠くても本当に魅力のある学校にしないと人は来ない 「普通でいい」という保護者の声が多い 通学のためにJRバス、スクールバスが必要 特認校の考えを私立に但ってもらう方法もある 年毎に余力のある学校に特認制度を実施してはどうか 中学校にも特認制度を入れるべきではないか 特認制度は地域に根ざした学校の良さが崩れる懸念があり、小学校2校に限定すべき 自分の住む地域のことを学ぶだけがCSではなく、市全体のCSという考え方もできる PTA活動に特認の方も頑張ってもらいたい(勝浦小) 特認は慎重に進めるべき
学校の新設 (長期的方法)	<ul style="list-style-type: none"> 「自分だけが」という不安は解消される 校区変更が最小限で済む 校区変更に伴う抵抗感が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> 建設後に人数減になるとどうなるのか 時間がかかる(4年～6年) 新設しても校区変更は必要となる 建設に多額の費用がかかる 	<ul style="list-style-type: none"> 新設が良いという意見は多い 10年限定の学校等新しい発想が必要なのでは 消防学校跡地に小中一貫校あるいは義務教育学校を新設してはどうか 福間南小(公園+集水所)で照葉小のようなスタイルができないか 建設場所が決まり次第、早く校区の話し合いをすべきである

共通事項

転校する場合に 配慮を要する点	<ul style="list-style-type: none"> 強制的にはしない 公平性のある決め方が大切 先の見通しを持って対応をすべき 大人の事情で子どもの通学に影響が出ることを常に念頭に置く 準備期間を経て全員が転校する(同じ区内で別々の小学校に通学する子どもが混在することが問題) 今後入学する児童は新校区、現在通っている児童とそのきょうだい児は卒業まで等の配慮が必要 転校の前年度に見学ツアー等の実施があるとよい 入学した学校で卒業するのが基本である
--------------------	---